

幕末から昭和初期における
旧柿生村近在の養蚕のこころ

平成27年10月31日
柿生郷土史料館

1. 養蚕業の推移

- (1) 都筑郡(柿生村)と東京府三多摩地区との結びつきの事情
 - ・ 明治26年(1893)まで現在の東京都南多摩西多摩北多摩は神奈川県に所属
- (2) 明治政府の富国強兵政策 生糸・茶を輸出に軍艦を建造
- (3) 日米修好通商条約[安政5年(1858)]による生糸・茶は輸出の目玉商品。ヨーロッパ(フランス、イタリア)病害
- (4) 富岡製糸工場(官立)
 - ・ 明治5年(1872)品質向上の先導的役割 日本輸出生糸の品質不良

2. 当地の養蚕

- (1) 飼育回数 年3回~4回 春(多) 夏(少) 秋(中) 晩秋(中)
- (2) 飼育方法
 - ・ テリケートの蚕(濡れた桑は駄目、乾きすぎも不可、オヤリ、黒人ぼ)
 - ・ 指導者 病い防止(生石灰、焼きもみゆが、ネットなど)
 - ・ 籠飼育と条層飼育 蚕室消毒 上簇とまゆかき、まぶし(ひき)
 - ・ 桑と桑市 まゆの種類(良質、玉糸、下品) 撚糸(売) (売) (自家)
 - ・ 自家糸取り機、機織り機

3. 蚕種

- ・ 片倉製糸(三井系) 八王子片倉市 現代版シルクロード(編の通) 八王子→横浜 各地に表示石連系にいる
- ・ 紅林蚕種 東京府北多摩郡昭和村御地(現昭島市) 春蚕の採種...八丈島 (小企業 鈴木俊雄(鈴木元和祖父))

4. 合資会社 鶴見川社と生糸買入商會(別紙資料参照)

- ・ まぼろしの生糸会社 鶴見川社の沿革 (写真参照)
- ・ 都筑(柿生) 多摩の豪蚕農家で合資設立 大企業に対抗
- ・ 大正3年(1914) アメリカの生糸輸入制限のあおりを受け倒産
- ・ その後の当地蚕業の変遷 昭和15年(1940)頃で大卒廃業 (文責 中溝正治)

富岡製糸場 (参考資料) 平成27年10月31日 柿生郷土史料館

明治政府は富岡強兵政策の当時の輸出産業の主力であった生糸の品質の向上をめざし、洋式器機の導入を計り、これを全国に普及するため、明治5年(1872)富岡の地に官立製糸工場を設立した。日本人工女の伝習にはフランス人10数名を指導者として任命した。伝習を受けた工女たちは故郷に帰り、その技術を伝承した。

1. 富岡の地を選んだ理由

- (1) この地が古くから養蚕地帯であった。…富岡系、下仁田系
- (2) 広い土地の確保。…300蚕
- (3) 住人の洋式器機への理解があった。…当時は一般的に攘夷思想強い
- (4) 良質の水の確保。風穴が多い(蚕種保存)

2. 施設・設備

- (1) 建物 木骨レンガ造り 採光 通り抜け 通風
倉庫 診療所 寄宿舎など
- (2) 蒸気機関 5馬力3基 蓄炭場 釜

3. 仏人指導者(明治8年秋)

首長ブリュナ(月給 期料) 医師マイ(225円0) 検査人ベラン(150円 66円)
製図職 バスロン(125円 66円) 機械方レスコ(100円 66円) 銅工職 ヴェロ(100円 60円)
銅工職 グラ(100円 66円) 工女 クロレド(80円 56円) 同ルズ(65円 56円)
同マイルサン(50円 56円) 同アルキサン(50円 56円) ※ブリュナ以外は月給の1/3は仏リリアンタール社で預り契約満期で支払い

4. 日本人勤務者(明治6年)

(1) 総員 620名位 (男60名 女560名)

総括(工場長) 150円 機械掛 100円 工女取締り 9円
1等上等工女 3円 1等工女 2円50銭 2等工女 2円 以下1階級
25銭違いで 17等工女 75銭

(2) 日本人の出身地

全国 各県 華族 士族 平民の各層

※明治元勳 井上馨の姪などいた。年齢13才~30才程

富岡製糸場(参考資料)

(3) 工女の勤務など

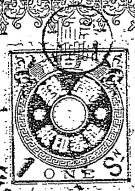
- ・勤務時間 午前7時～午後4時
昼休み1時間 小休憩 午後15分間
- ・外には警官が警護につく

(4) 所在地

- ・明治26年(1893) 三井に払い下げ→現在
- ・平成26年(2014) 世界文化遺産

券之資起

原本所蔵(大蔵中溝喬氏)



證券

一金六拾圓

右本社資本金ノ内へ拂込濟
相成候依テ滿期之節此證券
引換現金可相渡候也

明治二十七年七月廿一日

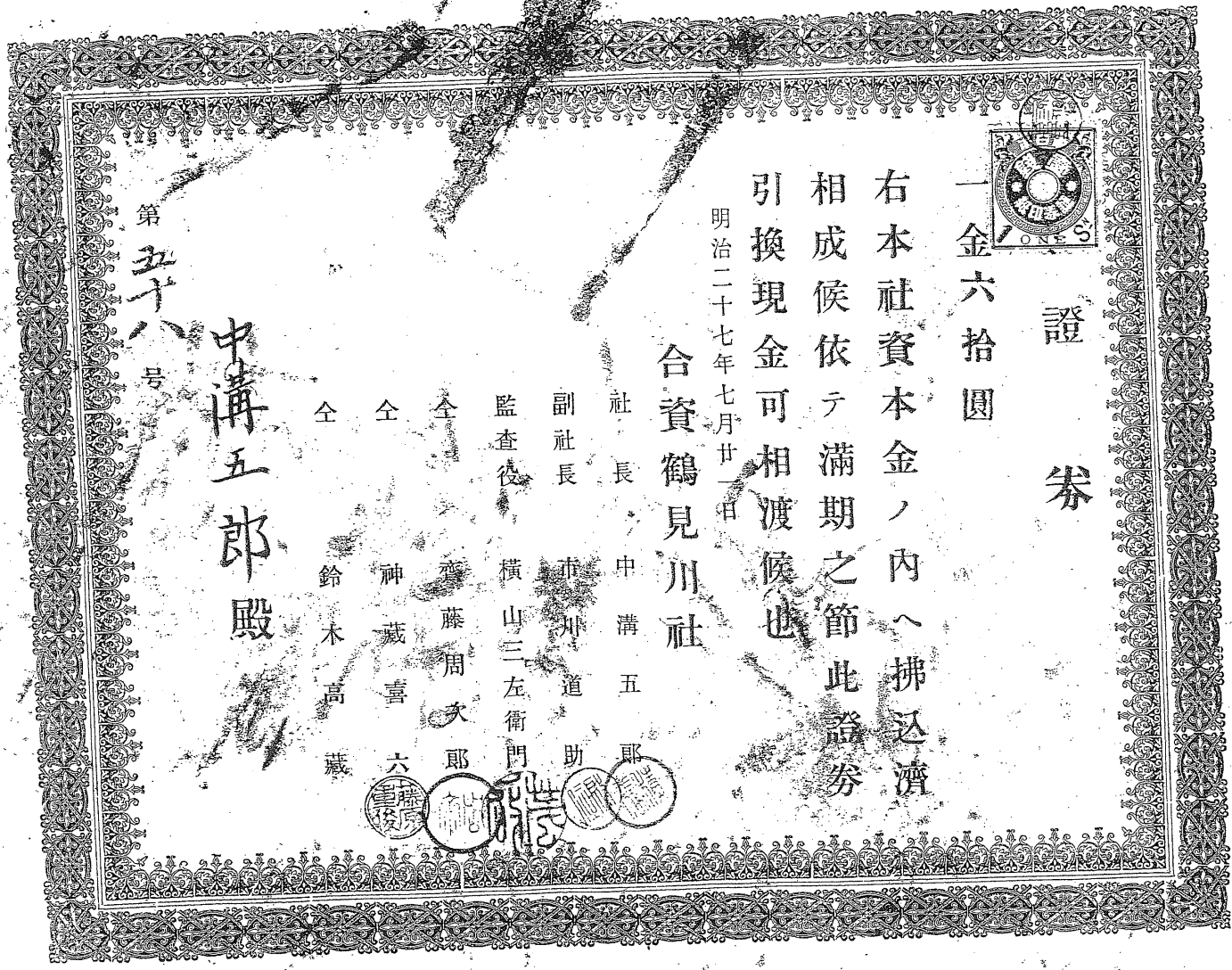
合資鶴見川社

- 社長 中溝五郎
- 副社長 市州道助
- 監査役 横山三左衛門
- 全 齊藤周次郎
- 全 神藏喜六
- 全 鈴木高藏



中溝五郎殿

第五十八号



生絲買入商會第一回決算報告

貸借對照表

一 資本金	四、一八〇〇〇
一 借入金	一、八〇三、三五七
一 本年度純益金	二、二九六、六六九
總計金	八、二八〇、〇二六
一 出資者各自預ケ金	二、〇九〇、〇〇〇
一 未賣却生絲豫算金	六、〇九〇、〇二六
總計金	八、一八〇、〇二六

損益計算

一金貳千貳百八拾六圓貳拾錢九厘	本年度總益金
一金八拾九圓五拾四錢	本年度總費金
差引	本年度純益金
金貳千百九拾六圓六十六錢九厘	
此配當計算左ノ如シ	
金貳千〇九拾圓	配當金
金百〇六圓六十六錢九厘	翌年度繰越金

右二月一日定式總會ニ於テ會員ノ認定ヲ經候也

生絲買入商會

明治三十五年二月二日

- 幹事 河合茂十郎
- 幹事 小島範藏

- 擔當社員幹事 河合茂十郎

- 同 梶 與 平
- 同 監査役 齊藤 常吉

常商會役員滿期ニ付改選ノ際小島範藏辭任ヲ申出及ビ幹事壹名ヲ增員スルヲ決シ選舉ヲ行ヒ左ノ諸氏當選就任セリ

鶴見川合資會社第八回決算報告

貸借對照表

負債之部	
資本金	六、一六四、五〇〇
積立金	一、七九四、〇〇〇
借入金	一三、七二七、八一〇
純益金	二、三五二、六一八
器械買入豫算金	三三〇、〇〇〇
前年度繰越金	二五、六三六
總計金	三四、三八四、五四九
資産之部	
出資者各自エ預金	三、〇八二、二五〇
有價證券	二、一二五、〇〇〇
貸金	一、九〇〇、八二四、六
未賣絲代割越金	八、九〇五、七七一
絲入箱	七三、五〇〇
生絲取扱諸器具	一六〇、二一一
現在金	一、〇二九、五七二
總計金	三四、三八四、五四九

収支計算	
一金九万〇貳百五拾壹圓十三錢八厘	本年度總收入
一金八万七千六百〇四圓十四錢二厘	本年度總支出
差引	本年度純益金
一金貳千六百四拾六圓九十九錢六厘	前年度繰越金
一金貳拾五圓六十貳錢貳厘	
合計金貳千六百七拾貳圓六拾壹錢八厘	
此配當計算左ノ如シ	
一金九百三拾圓	積立金
一金三百二拾圓	器械買入豫算金
一金二百三拾圓	役員賞與金
一金壹千七十八圓七十八錢八厘	配當金
	運轉資本ニ對シ(年三割五分)
	翌年度繰越金

右之通りニ候也

明治三十五年二月一日

鶴見川合資會社

業務擔當社員社長	中 溝 五 郎	(天 藏)
同 副社長	市 川 道 助	(天 藏)
業務擔當社員	櫻 本 次 郎	(天 藏)
同	神 藏 岡 右 衛 門	(天 藏)
同	河 合 茂 十 郎	(天 藏)
同	小 島 範 藏	(天 藏)
同	北 島 桂 八 郎	(天 藏)
同	梅 澤 象 太 郎	(天 藏)
同	牧 野 敬 助	(天 藏)
同	神 藤 喜 兵 衛	(天 藏)
同	鈴 木 靜 輔	(天 藏)
同	齊 藤 周 次 郎	(天 藏)
同	近 藤 市 三 郎	(天 藏)
同	宮 野 彌 吉 郎	(天 藏)
同	口 井 太 郎	(天 藏)
同	鈴 木 七 右 衛 門	(天 藏)
業務擔當社員監査役	鈴 木 高 藏	(天 藏)
全 市 川 藏 之 助		

前記ノ各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證候也

當會社役員滿期ニ付改選致シ候處何レモ重任尙常務擔當社員増員スル
トニ決シ選舉ヲ行ヒシニ榎本太郎當選就任ス